

十一月例会御案内 (平成二十八年・第六八回)

公益財団法人協和協会

○ 御案内 (トランプ氏勝利に伴う緊急月例会)

十一月十七日(木)午後五時〜同七時 衆議院第一議員会館 地下一階・第二会議室

講 題 トランプ氏が米大統領へ、どうする日本の対応!

講 師 読売新聞社トップクラスOBの左記三氏に、御講話をお願いいたしました。

▽太田 宏先生(特に経済金融対応) 経歴・読売新聞西部本社社長・読売新聞大阪本社社長

▽浅海 保先生(アメリカに詳しい) 経歴・読売新聞東京本社編集局長・同グループ副主筆

▽高橋利行先生(国内政治評論家) 経歴・読売新聞解説部長・論説委員・新聞監査委員長

◎ 十一月八日投票・同九日確定したアメリカ大統領選挙は、クリントン氏とトランプ氏の史上稀にみる大激戦となりました。選挙戦当初は両者拮抗、中盤でクリントン優勢、しかし終盤でトランプが追い上げていくと聞いても、アメリカ国民も日本国民も、政治経験のないトランプ氏よりも、馴染みのあるクリントン氏が選出されるもの、と考えていました。

ところが、意外にも、トランプ氏の勝利となり、いま、日本の朝野は、選挙戦中のトランプ氏の日本へ対する過激な発言もあり、例えば、経済金融政策、外交通商政策、安全保障政策などにつき、日本はどう対応したらよいか、今から、考えておく必要があります。

そこで、急遽、読売新聞にて数多の経験を積みトップクラスを経験されたお三方にお出でをいただき、その御見解をうかがいます。なお、議員会館の会議室が、国会会期末なので、日中に空気がなく、夕方五時からとなりますが、急を要する議題ですので、決定いたしました。貴重な機会ですので、どうか、奮って御参加下さるよう、お願い申し上げます。(清原記)

□ 当日会費三千円

当日の連絡先 080-8836 6203 080-9292 2620

◎ 御報告

去る十月三十一日の月例講話会は、心臓外科の権威であり、心臓治療に電子技術を応用したことも知られる医学博士・東京大学名誉教授の渥美和彦先生(当財団会員)に、『これからの医療は「予防医療」中心へ』と題して、ご講話いただきました。

その内容は、かつて経験したことがない超高齢社会へ突入した日本は、高齢者自身も思わぬ症状が出て戸惑っており、医師側もその対処方法に戸惑っている。国も膨大な医療・介護支出に苦しんでいる。また、高齢者も、老々介護や寝たきりでは、長生きの意義はない。

そこで、私は、高齢者が健康で認知症にもならず元気で長生きする社会を作ろうと、努力している。そのためには、西洋医学の手術や薬剤だけに頼る「治療医療」を見直し、例えば、生活習慣を改める、また、東洋医学も取り入れた「予防医療」を重視する、さらには漢方やマッサージュ、またインドのヨーガなどをも取り込んだ、いわば「統合医療」を構築して行くのが念願だと述べられ、御高齢であつてもなお、医療に情熱を燃やされる先生の熱意に感銘しました。

▽ 「公益財団法人 協和協会」とは、

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「党派・打算を超えて真に国家的課題を調査研究し、特に重要課題は、政府宛要請書を作って、時の政府へ提出することにある、昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会のほかに、八つの部会と五〇六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を、時の政府へ提出している。

第二代会長は福田越夫元総理、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正二郎元財務大臣、第五代会長代行として江口一雄元衆議院議員、現在、第六代会長代行として、岸信夫衆議院議員が就任している。

□ 事務局電話 (03) 3581-1192

専務理事・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 御出欠は、御記名の上、この面を当日午後二時までに、FAXにて頂けますれば、幸甚です。

▼ 当事務局 FAX (03) 3507-8587

御芳名

十一月十七日(木)午後五時

出 欠

衆議院第一議員会館地下一階・第二会議室